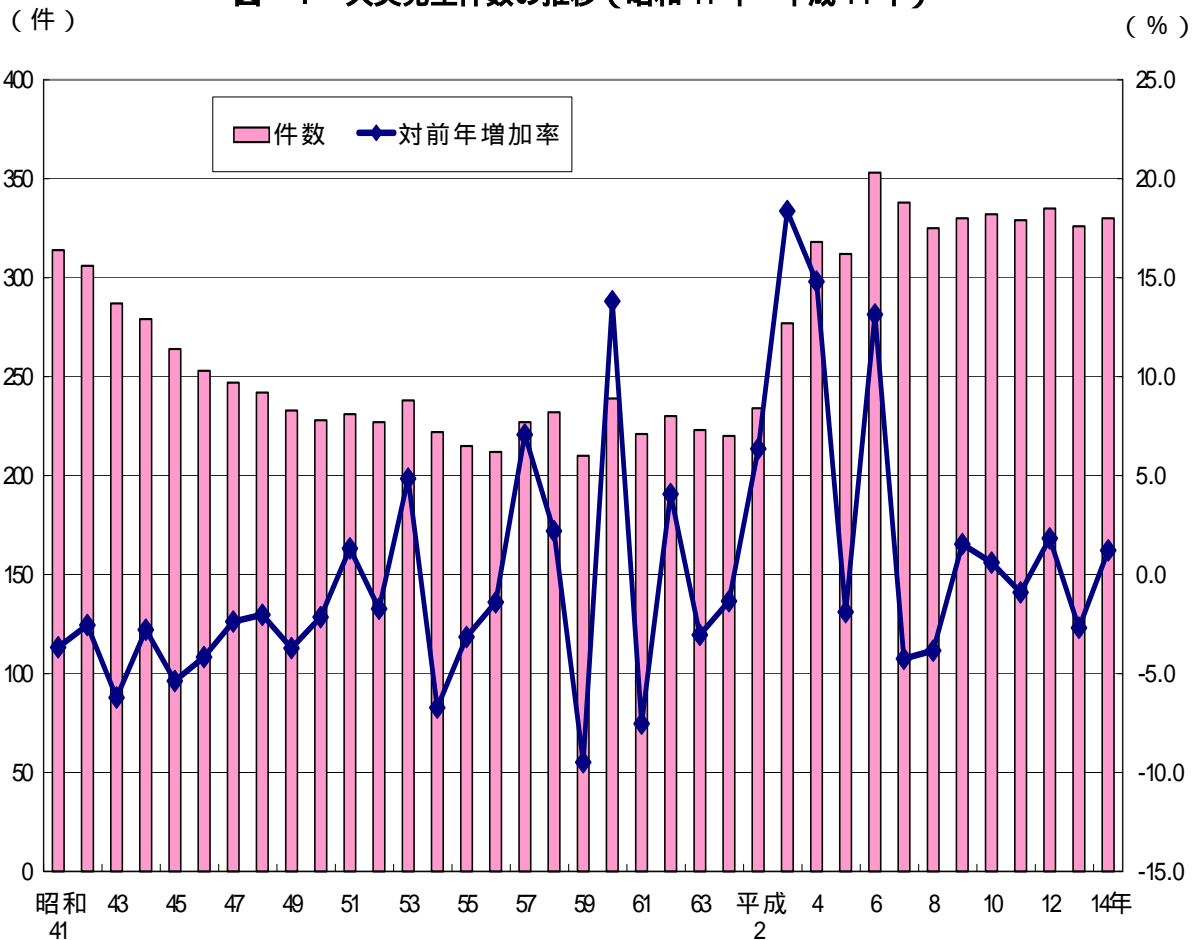


表 - 1 行政区別・月別火災発生件数

行政区	年計	平成14年																																																		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月																																							
京都市	330	32	27	34	25	31	28	25	28	21	25	31	23																																							
北 京 左 中 東 山 山 科 下 南 右 西 伏	26	17	29	21	19	21	29	41	25	23	79	3	2	5	1	2	3	1	-	2	3	2	1	2	3	4	1	1	1	1	2	5	2	1	1	2	3	6	3	3	2	1	1	1	2	5	4	10	4	5	11	3

資料：消防局警防部消防救助課

図 - 1 火災発生件数の推移（昭和41年～平成14年）



京都市内の火災発生件数（平成 14 年）

- 発生件数は横ばい

死者，り災世帯数，損害額は増加 -

平成 14 年中に京都市内で発生した火災の件数は 330 件で，前年に比べ 4 件増加し，対前年増加率は 1.2 ٪増となっています。

行政区別で見ますと，伏見区が 79 件（構成比 23.9 ٪）と最も多く，次いで南区の 41 件（同 12.4 ٪），左京区，下京区の 29 件（同 8.8 ٪），北区の 26 件（同 7.9 ٪）と続いています。逆に最も少ないのは上京区の 17 件（同 5.2 ٪）で，次いで東山区の 19 件（同 5.8 ٪），中京区，山科区の 21 件（同 6.4 ٪）の順となっています。

月別にみますと，3 月，1 月，5 月・11 月の順に多く，逆に少ないのは 9 月，12 月，4 月・7 月・10 月の順となっています。

【表 - 1】

発生件数の推移をみますと，昭和 43 年以降，200 件台が続き，59 年には 210 件まで減少しました。しかし，平成 4 年以降は 300 件台が続いており，平成 7 年から 330 件前後で推移しています。

【図 - 1】

火災件数を火災種別にみますと，建物が 252 件で最も多く，全体の 76.4 ٪を占めています。

また，り災世帯数は 357 世帯で，前年に比べ 77 世帯の増加となっています。火災による死者は 21 人で，前年に比べ 2 人の増加，負傷者は 105 人で，前年に比べ 17 人の増加となっています。損害額は 5 億 5876 万円で，前年に比べ 18.7 ٪の増加となっています。

【表 - 2】

火災件数を火災原因別にみますと，放火（疑いを含む）が最も多く 76 件（構成比 23.0 ٪）となっており，2 年連続で 100 件以下となっています。次いでたばこが 57 件（同 17.3 ٪），天ぷらなべが 35 件（同 10.6 ٪）の順となっています。

【表 - 3】

表 - 2 火災状況（平成 12 年～14 年）

項 目	平成12年	平成13年	平成14年	
合計	335	326	330	
火災種別 件数	建物	246	244	252
	林野	3	8	5
	車両	55	48	45
	その他	31	26	28
り災	世帯数	336	280	357
	人員	635	519	682
死者数 (人)	死者	20	19	21
	負傷者	72	88	105
損害額 (1,000円)	1,117,805	470,679	558,760	

資料：消防局警防部消防救助課

表 - 3 主な火災原因別

火災件数（平成 14 年）

火災原因	件数
放火（疑いを含む）	76
たばこ	57
天ぷらなべ	35
ガスこんろ	14
ローソク	14
電気ストーブ	9
交通機関内配線	9
石油ストーブ	8
その他	108

資料：消防局警防部消防救助課